

# チエルノブイリ通信

発行：「チエルノブイリ支援運動・九州」事務局

連絡先：北九州市小倉南区徳吉東 1-13-24

TEL・FAX 093-452-0665

口座番号：福岡 7-65328

加入者名：チエルノブイリ支援運動九州

No.15

1992年10月10日



9月10日 日田にて

11月末、ミンスクに「サナトリウム・キュウシュウ」オープン！

「切尔ノブイリ通信No.15」をお届けします。「切尔ノブイリ同盟・ペラルーシ」の受け入れ、大変お疲れ様でした。また今回、同盟の話を聞く機会の持てなかつたところは、彼らがもつてきたビデオテープがありますので是非活用してください。（まだ日本語になっていませんが。）この通信は、実は9月末には届いているはずなのですが、大幅に遅れてしまいました。申し訳ありません。詳しい報告集は、近いうちに必ず発行しますが、今回は取りあえず、延び延びになっている「第三回総会」の案内と「サナトリウム・キュウシュウ」開設の案内ということになります。本当はのんびりと温泉にでもつかりながらと思っていたのですが、楽しみは来年にとめておきたいと思います。

### 支援運動・九州、第三回総会開催

10月18日（日）、午後1時から小倉北中央公民館で、第三回総会を開きます。案内が大変遅くなってしまいましたが、他の日程も難しく、この日に行いたいと思います。よろしくお願ひします。

一年、二年と続けてきた支援運動も、年を重ねるごとにそのネットワークは広がりを持ち、また、支援のあり方もより具体的になってきています。と同時に、切尔ノブイリ現地では、私達の予想をはるかに上回るスピードで被害が深刻化していることも事実です。今回、切尔ノブイリ同盟によつてもたらされた現地の情報には、ついにここまできたかという思いを強くしました。病気の子供は増

える一方なのに、器械は足りない、医者は足りない、薬もほとんどない……、そうした状況の中で、何とかこの悲劇を克服していくうと、彼らは必死の努力を続けているのです。

同盟は、いくつかのプロジェクトをもっています。その一つがサナトリウム計画です。その他に、ゴメリ医学・遺伝センター構想（すでに活動しているが、質量の充実が課題）、汚染していない食料を提供するための食品加工工場の建設などです。これ以外にも、さまざまな要望が出されました。どれもこれも、確かに早急に手を打たなければならない事柄です。それほどペラルーシの今の現状は厳しく、かつ困難な状況にあるわけです。

これらの現状をふまえ、支援運動・九州のこれから的一年の取り組みについて考えていきたいと思います。

総会では、①、過去一年の取り組みを振り返って、②、同盟の来日とサナトリウム計画の今後について、③、今後の取り組み、運動の進め方、④、第二次調査団派遣について、⑤、会計報告、⑥、事務局体制について、⑦、会費、会員資格について、⑧、その他、という議題で進めていきたいと思います。

日程的に詰まつてはいますが、多くの参加をお願いします。

### 三年契約でサナトリウムを支えていくことになりました。

具体的な要望をもつてやってくる同盟に対し、私たちがどれだけ支えていくこ

とができるのか、ということで、前回の通信でも書いていましたが、いろいろ意見をいただきました。また、彼らの滞在中にも各地で議論しました。それらの議論をふまえ、最終日の串間で共同声明という形で、文章化しています。

サナトリウムを維持、運営していくためには年間約1200万円ほどかかりますが、『分かりました。全額九州で保証しましょう。』とは、さすがに言えませんでした。しかし、『せめて半分ぐらいは』という意見が大半で、彼らとの確認では、「年間5万ドルを保証する」ということで落ち着きました。5万ドルというのはこの間の実績ということでもあります。もちろん、気持ちとしては全額保証できるくらい「ガンバロウ」です。

期間については、取りあえず3年間ということで、3年後再度見なおしを行うというものです。

市民運動として毎年決まった額のお金を送り続けるということは、またそれを約束するということは、非常にしんどい事です。しかし、しんどいからといって投げ出すことができないのもまた、この運動です。彼らの頑張りに応えるためにも、私たちももう一踏張りといきたいところです。

そのために、新たに「チャリティーコンサート」と「里親運動」を始めます。また、年一回の「チャリティーコンサート」や「講演会」などの企画やボランティア貯金への応募、物販活動などを積極的に取り組んでいきたいと思っています。

#### ■ チャリティーコンサート・講演会

来年の5月ぐらいに、「人が集まる」ということを前提に、チャリティーのコンサートか講演会などは企画できないでしょうか。できれば、何ヵ所かで。規模は1000人から2000人ということで、本格的なチャリティー物を考えています。ただ、この手の企画には事務局のメンバーはほとんど才能を発揮できないので、だれか、いいアイディアを出していただけだと助かります。

#### ■ ボランティア貯金

年一回、5月に募集があり、配分先を決めるそうです。いろんなところで、いろんな団体がもらっているみたいで、せっかくですから支援運動としても本気で申し込んでみたいと思います。金額は、サナトリウムの一年分に医療機器を提供できるくらいを考えています。

#### ■ 物販

好調に売り上げを延ばしている「チャリティーコンサート」を引き続きよろしくお願ひします。コーヒーを提供してもらっている中村さんから、「サナトリウムのこともあるし、もう少し基金の方へ回せるよう頑張ってみます。」といううれしい提案がなされています。8月にブラジルの方へ出向き、いい畑が見つかったとかで、もうすこし安く仕入れることができそうなので、その分を基金に回せるようにしたい、といううれしい申し入れです。

無農薬・有機栽培のコーヒーが200グラムで700円です。

## 11月末、ミンスクにサナトリウム 「キュウシュウ」がオープンします

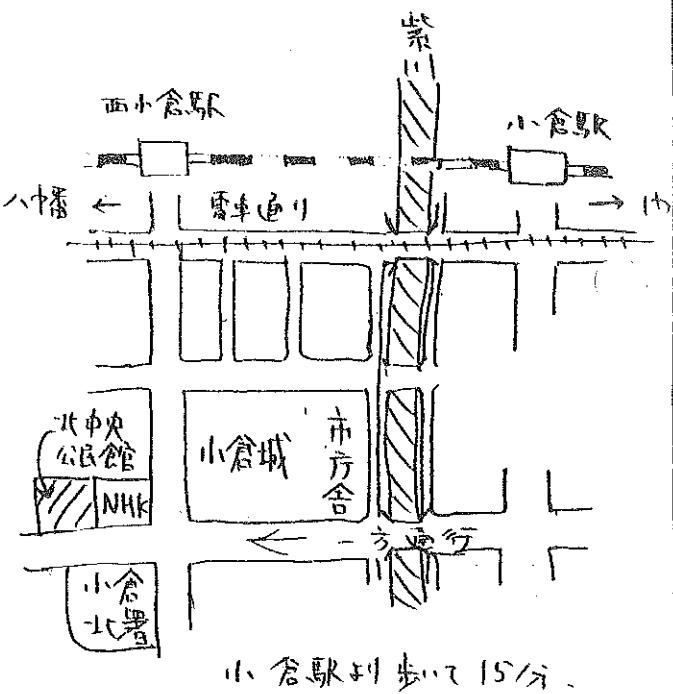
サナトリウムの名前が決まっていない。九州という名前をつけたいんだが、ということで色々考えましたが、分かりやすいところで、「サナトリウム・キュウシュウ」となりました。いよいよ11月末に、ミンスクにオープンします。旧ソ連時代に、オリンピック選手用のリハビリセンターだった施設の一部を、子供たちのためのサナトリウムとして開放するものです。

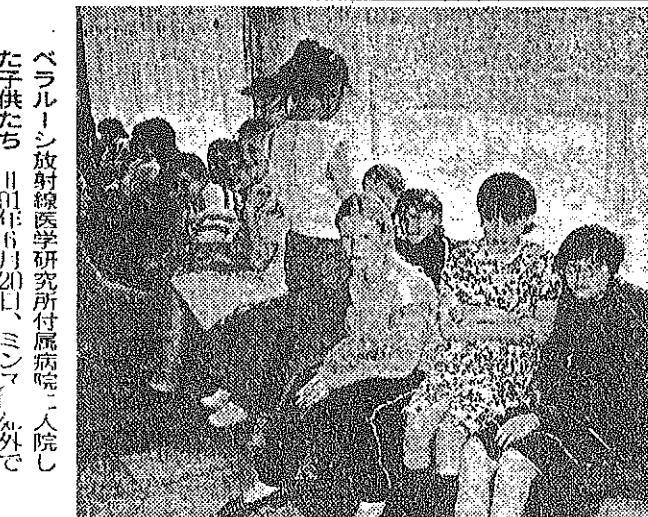
サナトリウムにかかる費用は一人につき一ヶ月3500円です。一人の子供のサナトリウムへの入所期間が1年として、その間の費用を私たちが里親として面倒を見ていこうという「里親運動」。おかげさまで多くの方から支持を得ています。前回の通信の段階では、サナトリウムのオープンの時期も分からず、本当にオープンするのだろうか、という心配もあったのですが、九州で3年間保証するという確認がとれたため、オープンに漕ぎつきました。

そこで、「チェルノブイリ基金」と「里親」の期間は、92年11月から93年10月ということになります。すでに振込んでいただいている方も、これから里親になろうという方も、11月からということで処理させていただきます。月々に送金を予定されている方は、毎月10日ぐらいをメドに送金していただくと助かります。ですから、次回は12月1

0日ということになります。よろしくお願ひします。

ベラルーシの子供たちとの交流については、これから準備を始めますが、とりあえず「新年カード」でも送ってはどうだろうかと思っています。里親ということについてお互いにまだ実感が沸いてこないと思いますが、そういうところから初めてはと思っています。11月末ぐらいに送ると、新年に間に合うのではないかと思います。また、里親に限らず、「新年カード」を送りたいという人もかまわないで、どしどし送ってください。それぞれに分かるように郵送します。





ペラルーシ放射線医学研究所付属病院へ入院した子供たち　平成9年6月20日、ミンマウエー郊外で

A map of Eastern Europe with a red circle highlighting the Chernobyl area in Ukraine. The map includes labels for Russia, Belarus, and Ukraine, as well as the Black Sea and the city of Odessa.



ヤコベンコさん

A. 8½

チエルノブイリ被災地

子供たちを救うサナトリウムの開設に力をかして、事故で被災したペラルーシー。

共和国の医師やジャーナリストたちが九月上旬、九州各地を訪れ、白血病などの子供を治療するサナトリウム人を首都ミンスクに聞くための支援を訴える。実現すれば、サナトリウムの名前

本、大部分など十市町を訪れる。小児科医の二ーナ・ドリックさんらが、子供の健

サナトリウムは、ミンスキーの  
クのスポーツ施設を病棟に  
改築し、サウナ、プールも  
備え、児童二百人を収容す

九州では、甲状腺検査用の超音波診断装置の提供や、放射線障害の治療に詳しい医師の派遣などを要請。被爆地・長崎などは放射線治療の先進地と聞いて

は「キュウシュウ」にした  
いといふ。  
九州入るるのは、事故  
の影響調査などをする市民  
組織「エルノブライ同盟」  
議長の作家ワシル。ヤコベ  
ンコさん(左)を副長とする  
五人。七日から十日間、  
福岡、北九州、長崎、熊

パネルで、廃村となつた地  
帶などの現状も紹介する。  
訪問團を招待するのは、  
昨年から現地を訪問し、故  
射能測定器などを贈つたり  
して同盟とのつながりがあり  
る市民団体「チエルノブイ

る。維持費など年間二千四百万円（約三千二百萬円）が必要といら。

被ばく救済で  
副知事と懇談  
%/ ベラルーシの医師ら  
チエルノブリ原発事故  
被害者に対する医療活動への  
理解協力を訴える講演会  
会などのため、九州入りし  
たベラルーシ共和国(旧ソ  
連白ロシヤ)の医師らがカ  
日、県庁を訪れて、林幹雄  
副知事と懇談した。

ル・ナゴベン」代表ら、ヤコブンさんは地図を示しながら「チエルノブリ事故で、ペラルーンは大きな被害を受けた。日本が原爆投下の後、被爆を免れた経験を詳しく聞かせて、済に役立てたい」と語った。

これに対し、林副知事は、「今回の講演会で教訓を傳わるでしょう」と話した。

100

九州では、甲状腺検査用の超音波診断装置の提供や、放射線障害の治療に詳しい医師の派遣などを要す。

懇親会などに直接訴えて  
「もうね」と、交通費などの  
支援を決めた。

部閉鎖さえ検討している」

## Chernobyl Nuclear Power Plant Accident Aftermath

## 月3千5百円で「里親」に

## 脱原発団体が運動スタート

毎月三千五百円の仕送りで子どもたちの命を救ってください——脱原発運動を進める「 Chernobyl Nuclear Power Plant Accident Aftermath」(約五百人)が、ベラルーシへ向け「里親運動」を始めた。 Chernobyl Nuclear Power Plant Accident Aftermathによる放射線障害に苦しむ子どもたちが入るサナトリウム運営費を、市民に里親としてまかなつてもらうというもの。

昨年六月、「支援運動・九州」の深江守さん(三五)は、政府が指定した「汚染地域」に二百五十万人が居住、うち四十万人は子ども

な声を聞いた。ベラルーシも、新生児の奇形や子ども

の白血病が増え始め、中でも放射線ヨウ素によるみられる甲状腺肥大の子ども

もは約八万人にのぼる。しかし医療設備も医薬品も不足し、子どもたちのためのサナトリウムもなく、回復に向かっても、再び汚染地に区に戻されるケースが多い

という。

見かねた「 Chernobyl Nuclear Power Plant Accident Aftermath」が、

もは約八万人にのぼる。しかし医療設備も医薬品も不足し、子どもたちのためのサナトリウムもなく、回復に向かっても、再び汚染地に区に戻されるケースが多い

という。

## ベラルーシ市民グループ

## 北九州市に支持訴え

Chernobyl Nuclear Power Plant Accident Aftermath のメンバー一派(「 Chernobyl Nuclear Power Plant Accident Aftermath」のメンバー)が十四日、北九州市役所を訪問、山口均助役に支援を

ロシア共和国の市民グル

ープ訴えた。

一行は同盟の責任者で作家のワルシ・ヤコベンコさん、医師のエレーナ・リストバーコさんら四人。同盟などによると、事故から約六年たった今でも放射能被

害は深刻で、ベラルーシだけでも八万人の子どもたちが甲状腺の異常を訴えてい

るという。同盟はこうした

ことを訴えている。

ヤコベンコさんは「放射能被害から子どもたちを守るためにもサナトリウムは必要です」と支援を要請し

た。

「支援運動」の連絡先は北九州市小倉南区徳吉東一の二三の二四、深江守さん、電話(093-452-06

65)。

首都ミンスク郊外に三百人を収容できる建物を借り、子どもたちに一年前後の長期療養の機会を与えようとした。しかし、同国の経済状態では独力での運営は難しく「支援運動・九州」に協力を要請してきた。

首都ミンスク郊外に三百人を収容できる建物を借り、子どもたちに一年前後の長期療養の機会を与えようとした。しかし、同国の経済状態では独力での運営は難しく「支援運動・九州」に協力を要請してきた。



## 共同声明

ベラルーシ社会エコロジー同盟“チェルノブイリ”とチェルノブイリ支援運動・九州は、チェルノブイリ原発事故の深刻な被害に憂慮し、その被害救済のための共同の事業を取り組むものである。

そのために、ミンスク郊外に子供たちのためのリハビリセンター「サナトリウム九州」を共同で運営する。

ベラルーシ側は、汚染されていない食糧の収集をはじめ、子供の健康回復に必要な物資の調達を行う。

日本側は、サナトリウムの運営のための資金の一部を提供する。その額は年間50000ドルとする。また、サナトリウムへの医療機器の提供、助言を行うための専門家の派遣も行う。

サナトリウムへの子供たちの入所基準については、各地の病院の推薦により平等に行われるようとする。

同盟と支援九州の双方は、サナトリウムでの治療、設備の充実と向上のために努力する。

また、ベラルーシ側は、サナトリウムの状況、子供たちの状況を定期的に日本側に伝える事とする。それは子供たちの写真であったり、手紙であったりする。

資金の使途については公開するものとする。

なお、この契約は3年とし、その後見直しを行うこととする。

1992年9月17日



ベラルーシ社会エコロジー同盟“チェルノブイリ”

代表 ワシリ・ヤコベンコ

チェルノブイリ支援運動・九州

代表 深江 守

深江守